

The 103rd Business Report

第103期 報告書

2010年11月1日～2011年10月31日

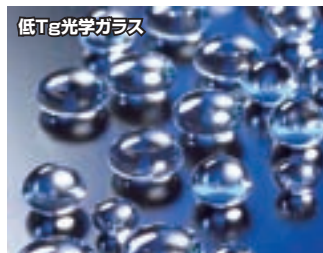
**OHARA**
株式会社 オハラ

証券コード: 5218

光事業 Optical Business



光産業の未来を創造するオハラの光学ガラスは、デジタルカメラ及び液晶プロジェクターに代表されるデジタル関連機器をはじめとして、顕微鏡・天体望遠鏡などにも使用されています。

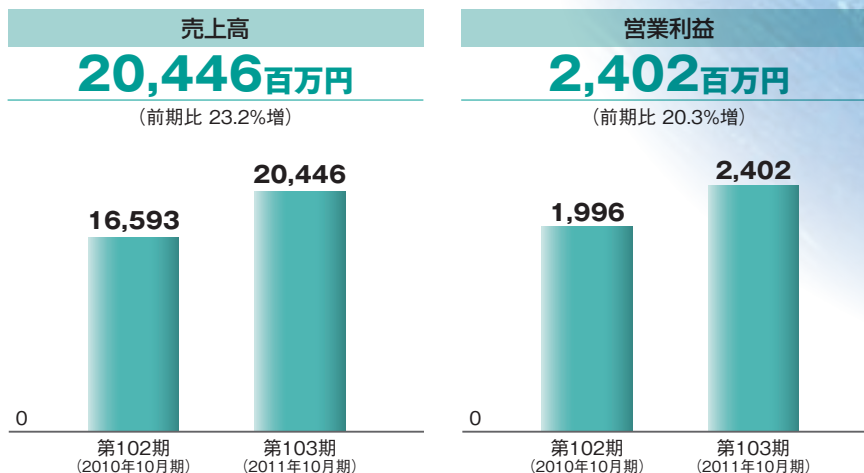


主要製品 ●光学ガラス素材
●光学機器用レンズ材

主な最終製品：デジタルカメラ・
液晶プロジェクター

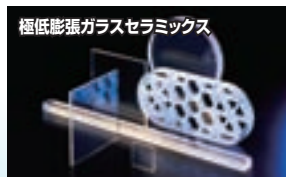
当期の概況

デジタルカメラ市場は、東日本大震災により一時的にサプライチェーンが分断されたものの、6月以降急速な復旧が進み、デジタル一眼レフカメラ及び交換レンズの出荷は過去最高水準で推移しました。これに伴い、当社光学ガラスの売上も好調に推移しました。一方、損益面では、中国の輸出規制に伴うレアアース原料の価格高騰が続き、収益性が低下しました。この結果、当事業の売上高は204億4,600万円(前期比23.2%増)、営業利益は24億200万円(同20.3%増)となりました。



71.3%

Electronics Business エレクトロニクス事業



光学ガラスで培った技術をもとに開発されたオハラの特種ガラスは、ハードディスクや半導体/液晶露光装置など、最先端のエレクトロニクス機器に使用されています。

主要製品

- ハードディスク用ガラス基板材
(ノートPC)
- i線用高均質性光学ガラス
(電子部品用露光装置、半導体露光装置)
- 極低膨張ガラスセラミックス
(半導体露光装置、液晶露光装置)
- 石英ガラス
(液晶プロジェクター、半導体製造装置)

28.7%

当期の概況

ハードディスク用ガラス基板材は、ハードディスクドライブ市場での需要の伸び悩みに伴い、販売数量が大幅に減少し、損益面でも圧迫要因となりました。一方、半導体及び液晶露光装置向けのi線用高均質性光学ガラスや極低膨張ガラスセラミックスの販売は増加し、液晶プロジェクター基板向け石英ガラスの販売も堅調に推移しました。この結果、当事業の売上高は82億1,300万円(前期比24.4%減)、営業損失は7億5,700万円(前期は12億7,800万円の営業利益)となりました。

売上高

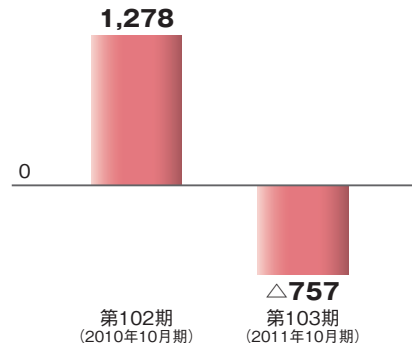
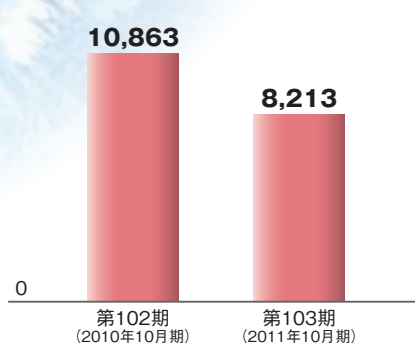
8,213百万円

(前期比 24.4%減)

営業利益

△757百万円

(前期比 ー)



総売上高
28,659百万円



ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

ここに第103期(2010年11月1日～2011年10月31日)報告書をお届けいたします。

今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 齋藤 弘和

グローバル生産体制の構 変化に対応し、成長してい

Q 当期(2011年10月期)の事業環境はいかがでしたか?

A 光事業の中心であるデジタルカメラ市場は、東日本大震災後の落ち込みから6月以降急速に回復し、特にデジタル一眼レフカメラおよび交換レンズは過去最高の販売数量を示す好調ぶりとなりました。その反面、光学ガラスの原料となるレアアースの市場価格は、期を通じて高値が続き、収益を圧迫しました。

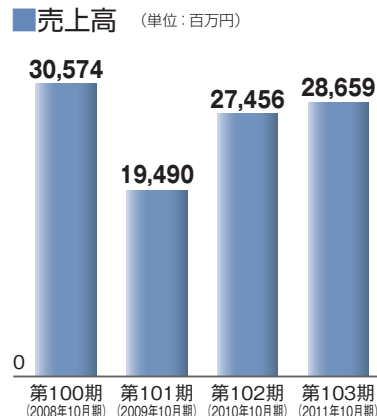
エレクトロニクス事業の中心であるハードディスク(HD)ドライブ市場は成長が鈍化し、これに伴い当社HD用ガラス基板材の販売数量は、大幅に落ち込みました。

Q そうした中での営業展開と成果についてお聞かせください。

A 当社では、光事業の主力製品である光学プレス品について、デジタル一眼レフカメラおよび交換レンズ向けの販売が拡大

連結財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights



築と新事業の推進。 く企業へ。

し、コンパクトデジタルカメラ向けの販売も堅調に推移したことから、同事業は売上増となりました。レアアース高騰への対応としては、中国合併パートナーからの光学ガラス調達を増加させると同時に、同社との合併会社である華光小原光学材料(襄陽)有限公司を活用した半製品生産などのコストダウンを実施するなどして、利益の確保に努めました。

一方、エレクトロニクス事業は、主力製品のHD用ガラス基板材の販売が大きく減少し、月平均の出荷枚数が前期比で半減しました。そのため、生産設備稼働率が大幅に低下することとなり、当事業では営業損失を計上する結果となりました。

以上により、当期の連結業績は、売上高286億5,900万円(前期比4.4%増)、営業利益16億4,400万円(同49.8%減)、経常利益16億2,400万円(同47.7%減)、当期純利益8億6,600万円(同55.9%減)となりました。

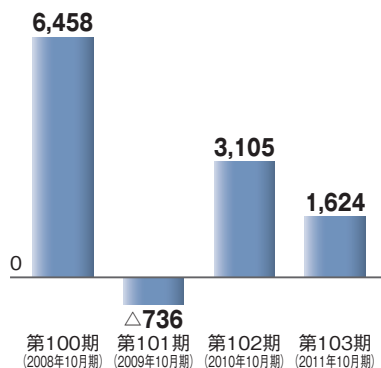
Q 新中期経営計画の策定背景と方向性をご説明願います。

A 当期は、第101期(2009年10月期)からスタートした旧3ヵ年中期経営計画の最終年度でした。旧計画は、策定直後からリーマンショックの影響に見舞われたため、収益を第100期(2008年10月期)の水準に回復させることを目標としてきましたが、レアアース高騰や東日本大震災など、多くの変化が生じる中で未達となりました。その間、お客様の海外生産シフトが進み、中国メーカーとの競争激化や、より高付加価値な製品が求められる傾向が、一層際立ってきている状況にあります。

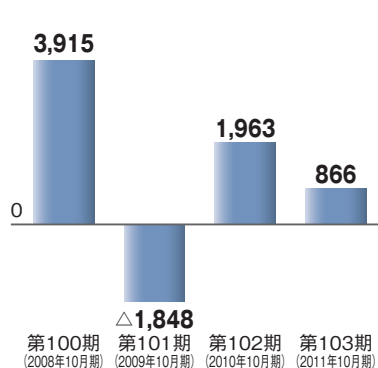
これらを踏まえて当社は、変化への対応力を強化し、成果取りのフェーズに移行していくために、「事業構造の転換」と「新成長ドライバーの構築」を基本戦略に掲げた新中期経営計画(2012年10月期～2014年10月期)を策定しました。

「事業構造の転換」では、熔解工程を含む光学ガラスの生産体制を海外に展開し、リスク分散とともにグローバルでのコスト競争力を確保していきます。その一環として2011年11月、合併会社である華光小原光学材料の生産力増強を決定しました。また、2012年2月には台湾における光学ガラスの生産拠点として、台湾小原光学材料股份有限公司を設立し、2013年2月

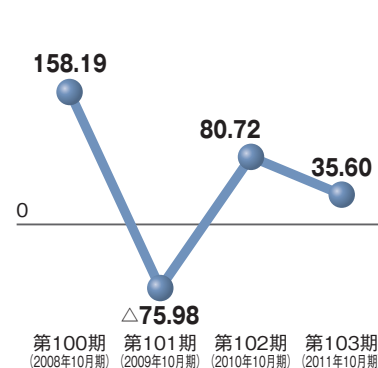
■ 経常利益 (単位: 百万円)



■ 当期純利益 (単位: 百万円)



● 1株当たり当期純利益 (単位: 円)





変動の影響を受けにくい体制とし、採算性を向上させていきます。

そして「新成長ドライバーの構築」では、地球温暖化対応・低炭素化社会実現への貢献に向けて取り組んできた環境・エネルギー分野に注力し、新事業として確立します。具体的には、リチウムイオン二次電池用部材の開発を加速し、今後3年間で収益化を目指します。また、光事業においても新たなチャレンジとして、非球面用低Tgガラスのモールドプレスやレンズ研磨など、後工程領域に参入していきます。

Q 新中期経営計画の目標と課題についてお聞かせください。

A 新中期経営計画では、最終年度(2014年10月期)の連結業績における売上高420億円以上・経常利益47億円以上・ROA(総資産経常利益率)7.0%以上・総資産有利子負債比率15.0%以下を目標に掲げています。そして売上高のうち、環境・エネルギー事業と、光事業の後工程領域参入による寄与を、それぞれ15億円と見込んでいます。

※新中期経営計画の詳細については、p7~8をご参照願います。

から操業を開始する予定です。

エレクトロニクス事業では、HD用ガラス基板材において、次世代技術の熱アシスト磁気記録方式に適合した新製品の投入など、サプライチェーンの競争力強化を図ります。同時に、マレーシアのHD生産会社において、ガラス素材生産への特化・集中を強めつつ、光学ガラスの生産も可能とすることで、需要

OHARA Topics トピックス…オハラの第103期の取り組み

1 12月3日

光学ガラス新製品「S-NPH3」リリース

「S-NPH3」は、従来品(S-NPH2)を改良し、より色収差※を良好に補正できるとともに、光学系の薄型化にも貢献する光学ガラスです。

※色収差:光の波長による屈折率の違いによって生じる像のにじみやボケ



3 3月2日~3月4日

第2回国際二次電池展に出展

国際二次電池展は、二次電池(充電式電池)に関する世界最大級の国際商談展示会です。オハラでは、第1回に引き続き次世代電池用リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス「LICGCTM」を出展し、電池メーカー等とのコネクション形成に努めました。



2010.11

2010.12

1

2011.1

2

2011.2

2011.3

3 4 5

2011.4

6



2 1月19日~1月21日

ライティングジャパン 第3回次世代照明技術展に出展

ライティングジャパンは、LED、有機ELなどの次世代照明業界における日本最大の展示会です。今回、オハラのガラスが貢献できる分野拡大のため初出展し、多くのお客様と、ガラスの必要性、可能性、課題等について情報交換を行いました。

4 3月

「東日本大震災」に対する支援

3月11日に発生した「東日本大震災」により被災された方々の救済と被災地の復旧にお役立ていただくため、1,500万円余りの義援金を拠出したほか、救援物資の提供を実施しました。

また、中国・台湾・マレーシアの光学ガラス生産体制構築、環境・エネルギー事業の育成等に伴い、設備投資額は3年間で100億円を予定しております。

今後の課題としては、グローバル光学ガラス生産体制の立ち上げに際し、現地に必要な人材の育成が急務となります。また、環境・エネルギー事業の軌道化に向けて、インキュベーションセンターを中心に、お客様とのパートナーシップによるサプライチェーンの確立を急ぐ必要があると考えています。

Q 次期(2012年10月期)の見通しはいかがですか？

A デジタルカメラ市場については、欧州金融危機の影響や中国国内におけるレアアース価格上昇の動きなど、先行きの不透明感が増しているものの、引き続きデジタル一眼レフカメラおよび交換レンズを中心とする需要の拡大を見込んでいます。当社は、光学プレス品生産のフル稼働を想定し、華光小原光学材料の生産力増強と並行して、中国合弁パートナーからの光学ガラス調達を拡大させ、これに対応していく考えです。

HDDドライブ市場は、タイの洪水被害による停滞が期前半まで

は続き、半導体・液晶露光装置市場も当面の調整基調が予想され、いずれも回復は期後半となる見通しです。当社では、マレーシアのHD生産会社の光学ガラス生産への転用による採算性改善効果を見込んでおり、また、最新世代となる500GB対応のHD用ガラス基板材に対するメーカー評価の進展にも期待しています。

次期の連結業績は、売上高326億円(当期比13.7%増)、営業利益21億円(同27.7%増)、経常利益21億円(同29.3%増)、当期純利益11億円(同27.0%増)を予想しています。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 当期の期末配当は、株主の皆様への安定的・継続的な利益還元を維持すべく、前期同額の1株当たり20円とさせていただきます。次期以降、さらなる業績の向上を目指し、皆様への利益還元を一層充実させるべく努力してまいります。

これからの当社は、さまざまな環境変化に対応し、その中で着実に企業成長と収益拡大を遂げ、株主の皆様のご期待にお応えしていくための体制整備を進めてまいります。今後とも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

5 3月25日

「華光小原光学材料(襄陽)有限公司」設立

アジア圏におけるデジタルカメラ市場の成長を背景に、中国国内で高品質な光学ガラスを製造・販売するため、中国の北方光電股份有限公司(上海証券取引所上場 証券コード600184)との合弁会社、「華光小原光学材料(襄陽)有限公司」を中国湖北省に設立しました。

7 9月6日~9月9日

小原光学(香港)有限公司が CIOE2011 第13回中国国際光電博覧会に出展
CIOEは、中国の深圳で開催される、光電気産業に関する世界最大規模の展示会です。オハラでは、グループの中国販売拠点である小原光学(香港)有限公司が出展し、オハラ製品の紹介を行いました。



6 4月20日~4月22日

レンズ設計・製造展2011へ出展

レンズ設計・製造展は、レンズ設計およびレンズ製造に関する最新技術を一堂に会した専門展示会です。オハラでは、直近の開発品など、光学ガラスの最新情報をお知らせするとともに、お客様のニーズに合わせたさまざまな製品形態のご提案にも注力しました。



8 10月24日

タイで発生した洪水被害に対する支援

タイにおいて記録的な大雨により発生した洪水によって被災された方々の救済および被災地の復興にお役立ていただくため、100万バーツ(約250万円)を拠出しました。

2011.5

2011.6

2011.7

2011.8

2011.9

7

2011.10

8

長期ビジョン2020へ向けて

新中期経営計画(フェーズII: 第104期~第106期)について

オハラの「変えなければならないもの」

今までの活動をさらなる成長軌道に乗せていくために、「変えなければならないもの」があります。

新中期経営計画(フェーズII)では、その「変えなければならないもの」として、2つの基本戦略「事業構造の転換」と「新成長ドライバーの構築」を掲げました。

●中期経営計画の基本戦略の進化



●長期ビジョン2020の達成に向けた取り組み

「長期ビジョン2020」へ向けたフェーズIIとなるこの新中期経営計画では、各事業の主要戦略を右記の通り定めました。

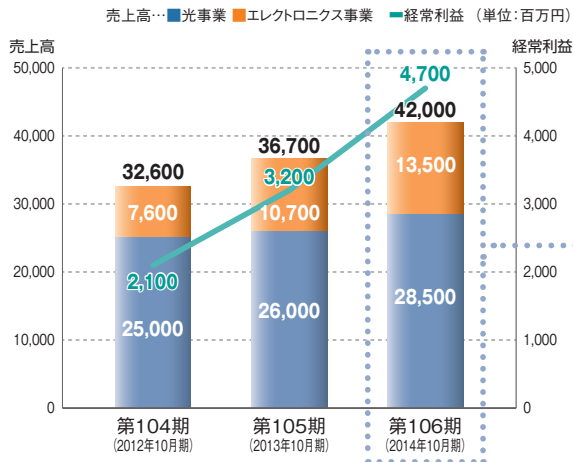


主要戦略については、高付加価値化・多角化・グローバル化をよりスピーディーに実現するために、経営資源を重点的に投下していきます。

オハラの「変えてはならないもの」

「経営理念」はオハラのDNAであり、「長期ビジョン2020」はオハラグループが実現すべき将来像。それらは「変えてはならないもの」として共有された私たちの道しるべです。

「長期ビジョン2020」



目標指標 第106期 (2014年10月期)

● 売上高	420億円以上
● 経常利益	47億円以上
● ROA (総資産経常利益率)	7.0%以上
● 総資産有利子負債比率	15.0%以下

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2011年10月31日現在	2010年10月31日現在
資産の部		
流動資産	29,407	26,663
固定資産	28,472	29,176
有形固定資産	22,635	23,283
無形固定資産	92	62
投資その他の資産	5,743	5,830
資産合計	57,879	55,840
負債の部		
流動負債	12,700	10,625
固定負債	4,687	4,648
負債合計	17,388	15,273
純資産の部		
株主資本	41,869	41,475
資本金	5,855	5,855
資本剰余金	7,930	7,930
利益剰余金	29,632	29,238
自己株式	△1,548	△1,548
その他の包括利益累計額	△1,695	△1,191
その他有価証券評価差額金	1,610	1,601
為替換算調整勘定	△3,306	△2,793
少数株主持分	317	282
純資産合計	40,490	40,566
負債・純資産合計	57,879	55,840

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2010年11月1日から 2011年10月31日まで	2009年11月1日から 2010年10月31日まで
売上高	28,659	27,456
売上原価	21,461	18,781
売上総利益	7,197	8,675
販売費及び一般管理費	5,553	5,400
営業利益	1,644	3,275
営業外収益	349	277
営業外費用	370	447
経常利益	1,624	3,105
特別利益	561	4
特別損失	416	336
税金等調整前当期純利益	1,769	2,773
法人税、住民税及び事業税	534	901
法人税等調整額	316	△125
少数株主損益調整前当期純利益	918	—
少数株主利益	52	34
当期純利益	866	1,963

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2010年11月1日から 2011年10月31日まで	2009年11月1日から 2010年10月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,304	4,307
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,839	△2,417
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,129	△1,036
現金及び現金同等物に係る換算差額	△93	△341
現金及び現金同等物の増減額	△4,108	510
現金及び現金同等物の期首残高	9,082	8,572
現金及び現金同等物の期末残高	4,974	9,082

会社概要 (2011年10月31日現在)

商号	株式会社オハラ
所在地	〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30 TEL 042-772-2101(代表) FAX 042-774-1071 ウェブサイト http://www.ohara-inc.co.jp/
創立	1935年10月1日
資本金	58億5千5百万円
事業内容	光学及びエレクトロニクス関連向けガラス素材の製造・販売
従業員数	426名(グループ全体2,576名)
グループ会社	<ul style="list-style-type: none"> ●台湾小原光学股份有限公司(中華民国) ●OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア) ●小原光学(中山)有限公司(中華人民共和国) ●OHARA DISK(M)SDN.BHD.(マレーシア) ●株式会社オーピーシー ●株式会社オハラ・クオーツ ●Ohara Corporation(米国) ●OHARA GmbH(ドイツ) ●小原光学(香港)有限公司(香港) ●足柄光学株式会社 ●華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中華人民共和国)

役員 (2012年1月30日現在)

代表取締役社長	齋藤 弘和	(経営全般 兼 インキュベーションセンター長)
専務取締役	関戸 仁	(技術、生産子会社統括)
常務取締役	中島 隆	(経営企画、経理担当 兼 経理部長)
常務取締役	青木 哲也	(業務監査、総務、人事担当 兼 総務部長)
取締役	広瀬 孝二	(製造担当 兼 製造部長)
取締役	開沼 敬三	(業務、調達、品質保証、計測SC担当 兼 業務部長)
取締役	宗田 栄策	(営業担当、販売子会社統括)
取締役	後藤 直雪	(研究開発担当 兼 研究開発第二部長)
取締役	中村 敏宏	
取締役	春日 政雄	
取締役	眞榮田 雅也	
常勤監査役	久保田 桂詞	
監査役	石井 俊太郎	
監査役	脇屋 相武	
監査役	杉田 光義	

株式の状況 (2011年10月31日現在)

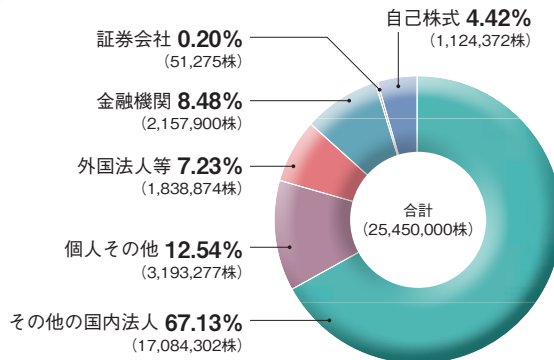
発行可能株式総数	76,000,000株
発行済株式の総数	25,450,000株
株主数	4,954名

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
セイコーホールディングス株式会社	4,702,722	19.3
キヤノン株式会社	4,694,380	19.3
京橋起業株式会社	4,688,400	19.3
三光起業株式会社	1,638,300	6.7
株式会社トプロン	673,600	2.8
セイコーインスツル株式会社	610,000	2.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	552,500	2.3
株式会社みずほ銀行	500,000	2.1
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	448,700	1.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	413,300	1.7

(注)出資比率は自己株式(1,124,372株)を控除して計算しています。

所有者別株式数分布状況



株主メモ | Information For Shareholders

事業年度	毎年11月1日～翌年10月31日
剰余金の配当基準日	10月31日(中間配当を行う場合は4月30日)
定時株主総会	毎年1月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告(http://www.ohara-inc.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		0120-288-324(フリーダイヤル) みずほ信託銀行株式会社 全国本店
お取扱店		みずほインベスターズ証券株式会社 全国本店
ご注意	未払配当金の支払(※)、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。

※未支払配当金の支払のみ、株式会社みずほ銀行全国本店でもお取扱いたします。

●ウェブサイトのご案内

ウェブサイトでは、当社の製品・サービス情報をはじめ企業活動全般の情報や、株主・投資家の皆さま向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。

<http://www.ohara-inc.co.jp/>



OHARA
株式会社 オハラ

〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
TEL: 042-772-2101(代) FAX: 042-774-1071



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。